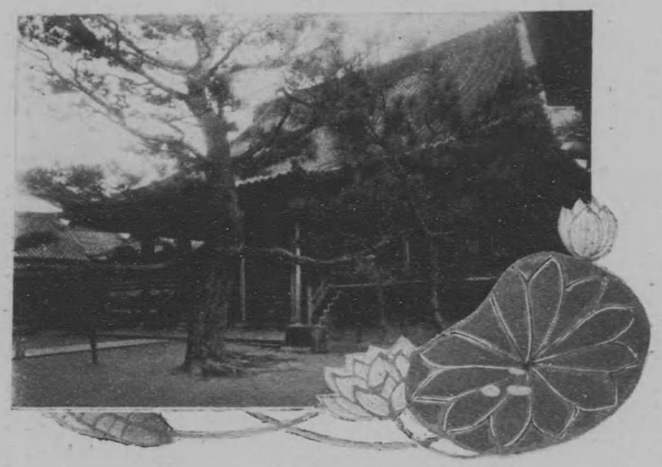
るものあり、守屋佛を排し太子に抗し、赤(あかえ)檮の矢に殪れしより、寒烟荒草の間に埋沒すること一千餘年、今にして其標を得たり。

難宗寺



北河内郡

難宗寺……行在所址

京阪電車守口驛

本寺は本願寺第八世慧燈大師の開基にして文明九年の創建に係る。現在の伽藍は後世再建せるものなるも、千年の老公孫樹山門を蔽ひ寺内頗る閑靜なり。明治元年伏見鳥羽の役、明治天皇親征大纛を大阪に進め給ふや三月二十三日、本寺を以て行在所と定めらる。聖蹟永く芳

を傳へ、御船標・御紋章の幕猶ほ當寺に寶藏す。今上陛下東宮に在しませし時、特別工兵演習御見學の爲め、淀川附近に行啓あらせらるゝに當り、特に先帝當年のことを思召され四十三年十月本寺に御駐泊あらせられし所なり。

○別格官幣社 **四條畷神社**……小楠公之墓 飯盛城址

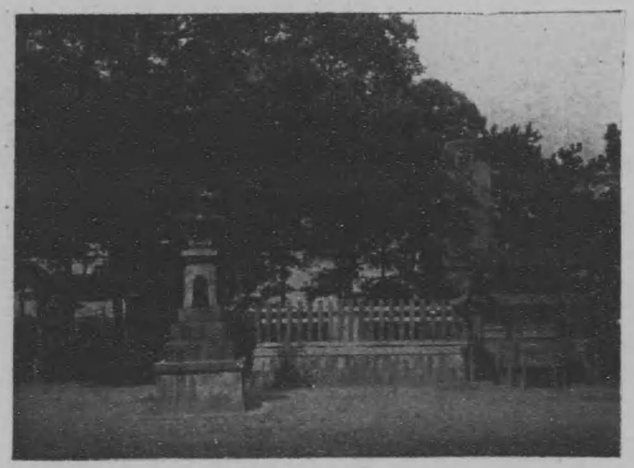
甲河村大字南野

四條畷神社 飯盛山腹翠松の間に建つ、小楠公を主神とし楠正時・和田源秀等二十四人を合祀す、明治六年明治天皇道明寺に行幸し給ふや、勅使を遣はして墳墓を弔祀せられ、二

四條畷神社

十二年四條畷神社を建て社格を賜はり長く皇國の鎮護とす。神域幽邃にし櫻楓道を挾み、殿堂山に倚り眼下に畷の古戰場を瞰、遠く茅海を隔てゝ、南海の翠螺を指すべく、一拜轉た崇敬の念を生ぜしむ。

小楠公之墓 是れ實に小楠公戰歿の所とす。蓊鬱たる一老樟瑩を蔽ひて枝頭南を指し、飯盛山の崔嵬鬱萃として當年の慨を語る所、一大碑建つ、題して『贈從三位楠正行朝臣之墓』といふ。書は大久保利通の筆。想ひ見る正平



楠正行公墓

三年正月五日逆賊大擧して來り犯すや、公一族を率ゐて禁闕に訣辭し、如意輪堂扉に鏃もて『返らしとかねて思へは梓弓……』の詠を留め、進みて四條畷に小勢を以て六萬の賊に當り兵を合する三十餘合、賊魁を寸歩に逸し、刀折れ身傷き、兄弟相刺し南を拜して殪る、公時に年二十三。時人塚上に楠木を植ゑ標石に唯『南無權現』と鐫りて忠魂を慰め、世々楠塚と稱し來りしを、明治十年堺縣令稅所氏有志と圖り域を修め碑を建て以て今日の盛觀をなせり。境内楠公夫人の碑あり、亦後年夫人の頌德の爲に建つる所、土俗相傳ふ、小楠公殉難の日夫人其の戰況を慮り竊に戰地を距る二里許の地に來りてはじめて愛兒の忠烈なる最期を聽かれしといふ。

四條畷懷古　　森　長勳

史編從古傳南木。原草於今忌北風。想見當年酣戰場。
英姿髣髴雨眸中。……。

和田源秀の墓　は畷を隔てゝ公の墓と相對し、草青く松垂るゝ處墳上一片の碑を建つ。四條畷の戰、源秀猶一人傷き生き、頻りに賊魁を索めて獲ず、却て反忠者湯淺某の爲に觀破せられて戰歿す。湯淺某一旦の功に誇ると雖、源秀最期の一睨、心魂を離れず日ならずして狂死すと傳ふ。忠勇の靈魂永く此土に眠りて獨り松籟の墓畔にむせぶを聞くのみ。碑背に句あり。

むかし問へはすゝき尾花のあらし吹く

飯盛城址　は飯盛山頂にあり、山勢遒峻にして恰も山の名の飯を盛れるに似たる頂、殘壘斷礎猶存し、櫻が池は當年城内の用水なりしと傳ふ。正平の時、義軍恩智左近の據りて以て賊軍に抗せる所後畠山氏の有となりしが、永祿中三好長慶威を京畿に振ふや、實に

當城を以て根據とせり。長慶沒落と共に廢墟に歸し、三本松獨り枯幹を風霜の中に殘せり。山上登臨の觀甚だ雄麗なり。

獅子窟寺

磐船村大字私市

生駒山系の中、溪深くして松繁れる嶮坂を登れば、眺望頓に開け山門青嵐を罩め、鳥聲閑かなる所、獅子窟の古刹建つ、山上の巨巖恰も獅子の口を開いて吼ゆるが如く、名も亦茲に出づ。寺は僧行基の創建にして龜山・後龜山兩皇の分骨塔あり。本尊の藥師佛は傳行基の作と云ひ刀法秀妙、頗る端嚴の相を具ふ。今は國寶に入る。

綠竹一山を繞りて山上の眺め頗る雄大、寺に參拜し、山に登臨する亦一時の懷を遣るべし。山腹に一叢の椎の森あり、森中に標石を存す古來傳へて龜山院の御陵と云ふ。

源氏瀧（元寺瀧或は倉治瀧）

交野山中石奇にして苔深き所十丈の飛泉巖を劈いて下る、遠望恰も源氏の白旗に似たり。溪流に沿ふて大巖あり、不動石といふ。山中古櫻多く、山麓又桃樹饒し、落紅碧潭に飜るの候、風趣最も佳し。貞觀年中、惟喬親王の遊覽あり、在原業平・紀有常扈從し親王の御詠を傳ふ、亦河北山中の一勝たり。

交野行宮址

山田村大字中宮

史上に頻見せる桓武帝交野の御狩の行宮址猶ほ存し徑數尺の圓礎石（俗に伽藍石と稱す）累々として林間にあり、長へに千年の面影を見るべし。地は卽ち太平記東下りの條に『交野の春の櫻狩り嵐の山の秋のくれ』と歌はれし所にして古へ近郊の賞景、遊獵の名區たり。

（新古今）みかりすととたち（鳥立）の原をあさりつゝ

交野の野邊に今日もくらしつ　　忠通

以て當年の狀を想ふべし。

交野原　は今の牧野村・山田村一帶の地にして、桓武帝・惟喬親王の屢〻茲に遊獵あり、禁野又御狩場と稱して古來の名勝たり、江山相交り蘆荻長く繁り今猶ほ鴻雁の群所として淀流域の好獵區たり。

（謠曲籠祇王）散りにし花の山風の、鵜殿の蘆の露わけて旅衣、禁野の雪をたどりゆく、交野の御野の櫻狩り、雨は降り來ぬ同じくは、ぬるとも花の陰に宿らん……。

百濟王神社　は交野行宮址の中にあり百濟國歸化の阿佐太子と其子孫を祀れる社なり。史に厩戸皇子より阿佐王に、交野郡に邸を賜ふとあるは此の地なり。文敎佛道に貢獻大なりしより代々の帝の尊崇敦く、社を建て地を給ふて祀を繼がしむ。桓武帝屢〻茲

に御狩し給ふや百濟王豐俊を行宮使として狩獵行宮のことを司らしめ給ふ。後裔今尙ほ存す。近傍荊棘の中に古墳數箇あり。傳へて百濟王兒女の墓と云ふ。

渚院址

牧野村大字渚

渚院址の鐘樓

文德帝一の皇子惟喬親王の宮居して鷹を放ち、馬を馳せられし所なり。『忘れては夢かとぞ思ふ思ひきや雪ふみわけて君を見んとは』は在原業平が親王を山城小野の幽居に訪ねし時のこと。親王又業平等と交野の原、渚の院前に櫻かざしては『世の中にたえて櫻の咲

かざらは春の心は長閑けからまし』（業平）の詠を聞し召しけんも此處なりき。址今は寺となり觀音寺と稱し、觀音の像を安置す。牧野村役場も院址の中にあり古鐘獨り庭上に存す。親王遺愛の五本櫻は名のみ殘り、駒止の松は枯れて渚岡の松風空しく昔を語る。岡上より眺むれば淀川其の裾を廻り野遠く山翠にして遙に京の東寺の塔を雲煙の間に見るべく、林中御殿山神社あり、今尚ほ遊覽懷古の人を絶たず。紀貫之が土佐より歸任の日『船ひきのぼるに渚の院といふ所を

波　瀲　岡

見つゝ行く其の院昔を思ひやりて見れば面白かりける所なり……』とて（土佐日記）

千代へたる松にはあれと古の聲の寒さは變らさりけり

鷹塚山　は此の近くにあり惟喬親王の愛鷹の狩獵に斃れたるを埋めし山にして峯秀でゝ幽禽樹に鳴き、峯頂の眺め甚だ宏麗なり。

蹉跎神社　蹉跎村大字中振

蹉跎の松林蒼葱の間、華表聳え殿樓隱見する所、卽ち菅公を祀れる蹉跎神社在り。菅公の謫遷せらるゝや息女苅屋姫追慕して此處に來れば、父君既に西發せらるゝの後なり。姫西天を望み蹉跎（あしすり）して悲歎したりしより採つて地名となし、鄕人社を建て、菅公手づから姫の爲に刻し遺せし自像を祀る。神林靜肅にして風光佳絶、世の崇敬甚だ敦し。社後のダ、山は卽ち姫が悵望蹉跎せる地にし

山上の菅相塚は公が休憩顧望の蹟と傳ふ。山腹に蹉跎池あり。伊勢が『わかせこか老ゆるか惜しきさたの池の玉藻にもかな刈りあけはやさん』は是れ。

蹉跎神社

佐太神社 は庭窪村佐太にあり、華表を入り長松一路にして社頭に達す、殿樓丹碧壯麗にして菅公を祀る。此の地曾て公の領地なりしかば、左遷の沙汰此の地に聞ゆるに及び卽ち沙汰の音により菅公自刻の像を奉祀せる所といふ、社頭の老梅は後水尾帝より社殿中興の領主永井尙政(寛永中)に賜ふ所にして勅梅と號す、遺芳なほ古を偲ばしむ。社に寶物の觀るべきもの多し。後水尾院の宸翰・雪村・探幽等の畫・菅公遺愛の硯等あり。

枚方遊園……くらはんか船

淀の長江帶の如く丘陵を繞り、白帆風を孕み渡頭船を呼ぶ出口の渡(昔の三島江)を隔てゝ三島郡と相對する所、街巷弓の如くに彎連して枚方町をなす。往時、三十石淀川船の泊所にして般盛の名殘りは今も猶くらはんか船の名に留まれり、船がゝりせし、鍵屋の室には曾て徳川二代將軍秀忠も宿れりと傳ふ。丘陵の懸崖翠松濃やかにして眺望快闊、天然畫圖を開くの所、京阪電鐵社に依て經營せられたるものを枚方遊園となす。亦京阪中間の一勝地たり。園内に御茶屋御殿と稱する所あり。秀吉が伏見・大阪往來の時憩ひて常に茶を煮、景を賞せる址と傳ふ。

『のぼり下りの三十石のさても乘合にぎやかに船頭衆の癖か高聲でかぢを片手に勇み肌（船頭節）（枚方浦ではヨー、錨がいらぬ三味や大鼓で船とめる）

枚方俚謠

天の川……天女の傳說

枚方町

天の川は源を大和の山境に發し、磐船村に入り偉大奇峭目を驚かす峽中船形の巨巖あり之を磐船と呼ぶ。磐船神社は卽ち此の石靈を祀れる所なり。水勢廻旋、峽を出でゝ交野を過ぎ、禁野を折れ、枚方に至りて澱江に注ぐ。清冽にして底礫數ふべし。傳ふ、昔天女あり降りて此の川に浴す、村里の少年見て戯に其羽衣を匿す、天女は翼衣を失ふて歸るによしなく少年と同棲三年にして死すと。亦三保松原天女の神話と同趣なり。在原業平が惟喬親王の望みに答へ『狩りくらしたなはた津女にやとからん天の川原に我は來にけり』と詠せしも此の地の御獵の時と聞く。

（謠曲雲雀山）梓の眞弓春くれば、霞む外山の櫻狩り、雨は降り來ぬ同じくは濡るとも花の木陰に宿らん、扨また月は夜を

枚方

全景

のこす雪には明くる交野の御野禁野につゞく天の河、空にぞ雁の聲はいる……。

博士王仁之墳

菅原村大字藤阪

墳は字御墓谷にあり、土俗又之を於爾墓と稱す。今其の確證を得難きも此の附近は百濟歸化民の古蹟にして王仁博士の族亦此の間に在りしや疑なからん。博士王仁墳の五字の碑は文政年間に建てしものにして有栖川宮の染筆にかゝる。墓碣を草萊の中に討ねて文敎最初の傳道者の跡を弔ふも亦感深し。

野崎觀音堂

西條村大字野崎

本尊は行基菩薩の手刻觀音にして著名の靈像たり。一旦荒廢に歸せしを一條院の御宇江口の遊君參籠して病平癒せしより再興の機縁となり、後元和年中に伽藍を修して現今のものとなれり。

野崎觀音堂

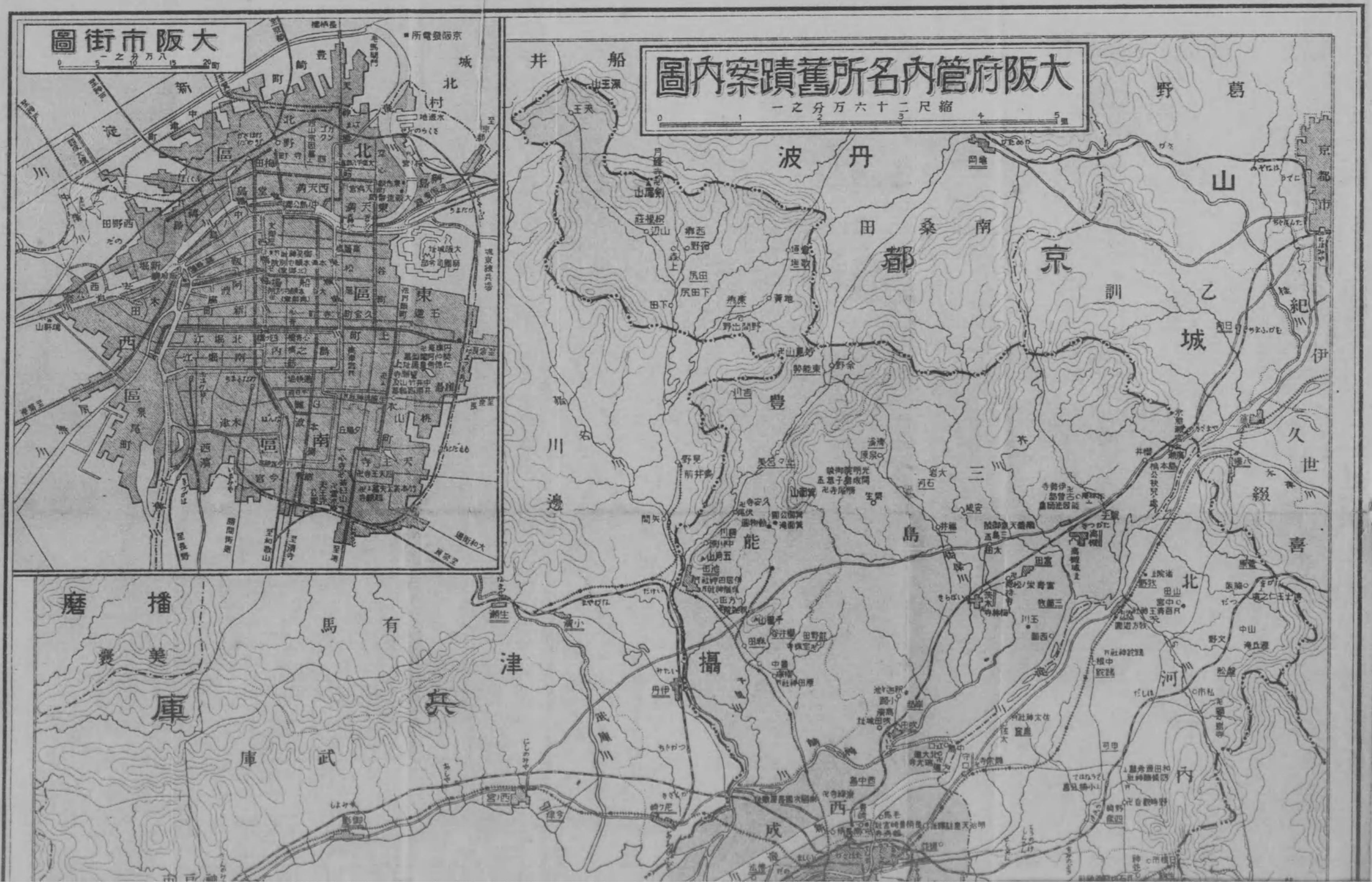
大阪府名所舊蹟案内

飯盛山系の半腹堂宇宏壯にして春櫻秋楓の美を聚め、攝淡の山海一眸の下にあり、四時賽するもの陸續たり。三十三所觀音堂、江口の君塚及びお染久松の墓あり。

歳の内に春を迎へて初梅や花も時知る野崎村久作といふ小百姓、けふ久松が歸りしと遽かに祝言取結び跡に娘は氣もいそ〳〵日頃の願が叶ふたも天神樣や觀音樣第一親のおかげ……。（お染久松歌祭文）

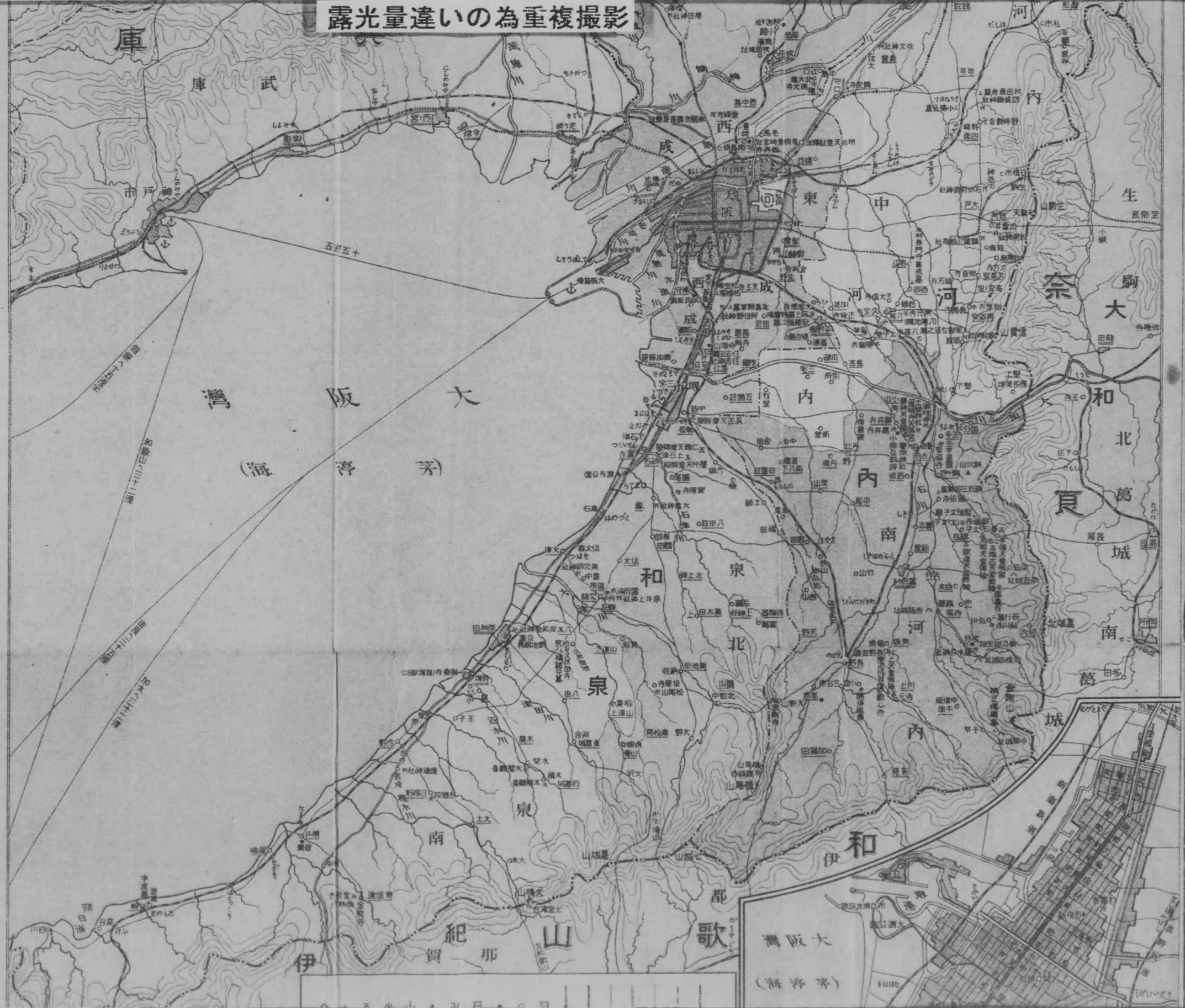
大阪府名所舊蹟案内 終

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

露光量違いの為重複撮影

露光量違いの為重複撮影

大正三年十一月二日印刷
大正三年十一月十三日發行

大阪府

印刷者　東京市日本橋區數寄屋町一番地
田山宗堯

終